

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670500117
法人名	医療法人 親貴会
事業所名	グループホーム もぜ
訪問調査日	平成20年7月18日
評価確定日	平成20年8月22日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670500117
法人名	医療法人 親貴会
事業所名	グループホーム もぜ
所在地	いちき串木野市春日町24番地 (電 話) 0996-32-3033
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年7月18日

【情報提供票より】(平成20年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 17 人
職員数	16 人 常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		950円	

(4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	64歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	えんでん内科クリニック えのもと歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅近くの市内中心部に位置し、入居者とともに近くの商店街に買い物に出かけたり外食を楽しむことが可能なホームである。建物は事務所として使われていたビルを改築したものであるが、居室に畳を備えたり、段差の解消や手すりを取り付けるなど工夫して使用している。医療法人の運営で、24時間母体病院の看護師と連絡が取れる体制であり、入居者やご家族にとって大きな安心となっている。管理者および職員は、入居者一人ひとりの思いを尊重しながら、それぞれの思いが実現できるように、常に問題意識を持ちケアの質の向上に励んでいる。夕方、入居者とともに近くの交差点に立ち、児童の下校を見守る「子供見守り隊」に参加するなど、地域との交流も年々盛んになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念については、運営推進会議で地域密着型サービスとしての新たな理念を検討する予定である。ご家族への報告については、ホーム全体の便りと個人毎の便りをそれぞれ年2回とし、定期的にご家族に送付している。馴染みながらのサービス利用については、本人の見学を勧めているが入院中などで困難な場合が多く、管理者が訪問、面談して馴染みの関係を築きサービスを開始するようにしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各ユニットごとに主任が中心となり実施しており、評価の意義や項目に対する理解を深めるために勉強会を行うなど、前向きに取り組んでいる。また、評価結果については運営推進会議で報告するとともに、課題については地域包括支援センター職員等から意見をもらいながら改善に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2ヶ月に1回開催され、様々な分野から意見を頂戴して運営に反映させている。会議を通して、地域住民との交流も活発になってきている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は、入居者やご家族からの些細な意見でも受け止めて改善に心がけている。また家族会でアンケートを取り、ご家族の思いの把握に努め、運営に反映させるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や高齢者クラブに加入して、地域の様々な行事に参加している。また子供見守り隊として、小学校の下校時間に合わせてホーム近くの交差点に入居者と一緒に立ち、児童の下校を見守っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が参画して考案した独自の理念があるが、さらに運営推進会議で地域密着型サービスとしての新たな理念を検討する予定である。		今後も検討を重ね、地域での暮らしを支えるサービスとして、そのことがイメージできるような理念に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践として個別ケアを重視し、季節の行事や昔の風習を取り入れながら、入居者の笑顔を引出すことを一番に考えて、管理者を中心に全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や高齢者クラブに加入して、地域の様々な行事に参加している。また子供見守り隊として、小学校の下校時間に合わせてホーム近くの交差点に入居者と一緒に立ち、児童の下校を見守っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットごとに主任が中心となり実施しており、評価の意義や項目に対する理解を深めるために勉強会を行うなど、前向きに取り組んでいる。また、評価結果については運営推進会議で報告するとともに、課題については地域包括支援センター職員等から意見をもらいながら改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され、様々な分野から意見を頂戴して運営に反映させている。会議を通して、地域住民との交流も活発になってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関して、市役所を訪れた際に疑問点など気軽に相談している。		折に触れて市担当者がホームを訪れることにより実情を理解し、ともにサービスの質の向上に向けて連携を深めることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム全体の便りと個人毎の便りをそれぞれ年2回、定期的にご家族に送付している。その中で、行事や入居者の日々の暮らしぶり、職員の異動等を報告している。金銭管理については金銭お預かり票で管理し、ご家族が訪問された際に確認し、サインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、入居者やご家族からの些細な意見でも受け止めて改善に心がけている。また家族会でアンケートを取り、ご家族の思いの把握に努め、運営に反映させるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人内の老人保健施設との交換研修のため半年間ほどホームを離れることはあるが、異動や離職は必要最小限となるように努めている。やむを得ず職員が退職する際には2ヶ月前に申し出てもらい、スムーズな引継ぎが行えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加している。研修後は報告書を作成し、伝達講習を行っている。管理者は職員一人ひとりの能力に合った研修への参加を促し、スキルアップを図っている。		職員を段階に応じて育成するための計画を作成し、個々の経験や能力に応じ、法人内外の研修を受ける機会を確保するなど、質の向上に向けた取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区のグループホーム協会に加盟し、年に4回程度の会合で交流を図っている。また地域のグループホーム同士で定期的に勉強会を開き、職員の交流とスキルアップを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人とご家族に見学を勧めているが、入院中の方が多く、ご家族のみの見学が多い。見学が困難な方に対しては管理者が病院や施設などに出向き面談をして、顔馴染みの関係を築いてからサービスを開始するように努めている。		利用される本人が直接来訪し、ホームの様子を感じていただく事が大切だと考えられる。今後も状況に応じて引き続き本人の見学を働きかけ、馴染みの関係を築いてからのサービス開始ができるよう期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から昔ながらの習慣や調理方法などを教えてもらったり、日々の生活の中で入居者を励まし、時には励まされながら、お互い支えあって生活を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族から生活歴や暮らし方の希望などを聞き、思いや意向の把握に努めている。管理者をはじめ職員全員が、日頃から一人ひとりを尊重したケアを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人やご家族の意向を把握し、全体会議やフロア会議において職員間で意見を出し合い、一人ひとりの状況に応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月でモニタリング、6ヶ月で見直しという期間を設定している。ただし、病状や状態の変化に応じて、期間終了以前でも計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連施設の行事への参加や、希望に応じて通院、外出等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医と連携を取り、通院や訪問診療など、適切な医療管理が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から本人とご家族の意向を確認している。また、入居者の状態変化に応じ、そのつどかかりつけ医やご家族と繰り返し話し合い、方針を確認して職員を含む関係者全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の名札や写真などは、本人およびご家族から同意を得た場合のみ掲示するようにしている。本人のペースを乱すことなく生活を送れるように、言葉かけには特に注意している。また、記録等の個人情報についても適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重して、職員の意見や都合を押し付けないように配慮している。外出も無理に止めることはせずに、本人の思い通りに行動していただき、職員は安全に注意しながら付き添い見守るように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に応じて、食事の準備や配膳をしていた。エプロンを付けて、毎日食事の準備を手伝われている方もおられる。嚥下の状態を把握して、安全に食事できるようにキザミ食やトロミ食で対応している。チマキやケーキなどのお菓子作りを通して、食べることを楽しめる機会を取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に沿って、午前・午後を問わずに入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることを把握し、食事の準備や洗濯物たたみなどをさせていただき、役割を持つことで生きがいのある生活を送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園や畑までの散歩や買い物など、日常的になるべく多く外出する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、入居者が思い思いに行動できるようにしており、職員は皆さんが安全に過ごせるように、その行動に目配りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。訓練を行う際には前日に近隣住民やご家族に呼びかけ、可能な限り訓練に参加していただいている。災害時に備え、非常食等も準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の管理栄養士と、栄養ケアプラン連絡票で一人ひとりの栄養状態について連絡を取り合い、栄養バランスなどについて指導を受けている。水分量は一人ひとりの水分量を把握し、極端に水分摂取量が少ない入居者については記録して水分量が確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの食器棚や家具を配置しており、落ち着いた雰囲気である。季節を感じるような飾り付けをして、入居者および訪問者の目を楽しませてくれる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者がこれまで生活していた雰囲気を少しでも感じることができるよう、希望に応じて畳の部屋も準備している。本人の使い慣れた家具を持ち込み、居心地の良い空間となるように支援している。		